

# 重ねても楽しく働き続ける

**定年時の預金は  
150万円。でも、  
心配はしませんでした**

**退職前後の3年間  
家計簿をつけました**

老後不安の第一は、やはりお金。貯金を使い果たして「老後破産」してしまわないか、不安に思う人は多いでしょう。定年退職後に企業人から経済コラムニストに転身した大江英樹さんは、「漠然と不安な日々を送るより、まずは現在と将来の収入と支出を把握・予測することが大事」といいます。

「私の定年時の預金は150万円。でも、退職前後の3年間だけ家計簿をつけてみて、退職後のほうが約3割も支出が減ることがわかったんです。減らせる支出も、必要な収入の目安もわかり、それで無駄な心配はしなくなりました」大江さんは定年後に再雇用を選択します。ただし、それは65歳までの期限付き。仕事の裁量範囲も

元会社員の経済コラムニスト  
**大江英樹さん(65歳)**



おおえ・ひで ●証券会社退職後、資産運用やシニアのライフプランに関する執筆や講演で活躍。著書に『老後不安がなくなる定年男子の流儀』など。



多趣味な大江さんが、「旅が何より楽しい」とのこと。フランス旅行では、事前にフランス語を習い、料理を習える宿に宿泊。

限られ、もの足りなさも感じたとか。そこで、雇用延長の期限を待たずして、起業を決断します。

「老後不安解決の最善策は、働き続けること。老後が不安なら、老後をなくせばいい。早く悠々自適になりたい方もいるでしょう。私も以前はそうでした。でも、いくら旅好きでも、日常の忙しさがあ

京都の老舗の帆布製バッグは二十数年前から愛用。「デザインも機能も気に入っています。好きな道具といっしょだと気分がいいですね」



はそう語ります。定年を迎えても、60代はまだまだ気力も体力も十分。高齢社会の今、長くなった人生を経済的な不安なく楽しむには、早々に「隠居」などせず、働き続けたほうが得策のようです。

るから旅が楽しいんです。そこで私の場合は、好きな道で働き続けられる起業の道を考えたいです」  
**人間関係を大切に  
「ギブ・ファースト」を**  
とはいえ、定年後に新しい仕事を始めるのは、簡単ではないと、多くの人は思っているでしょう。「私も最初からうまくいったわけではありません。趣味の集まりなどで、いろいろな方と話をするうちに、私が他の方の役に立てることが見えてきたんです。自分が何ができるかは、じつは他人が発見してくれるんですよ」  
退職前の社外の人間関係、仕事以外のつながりも大事にして、相手のためにできることがあれば、損得関係なく真摯にやってみる。組織を離れた1個人が信頼を得るには、ギブ&テイクではなく、ギブ・ファーストの気持ちが必要です。大江さんはそう語ります。

“老後破産”が切実に心配で……

# 「隠居」せず、年を

## 64歳で就活、再就職。

### 「働ラク」とは 「傍がラク」になることです

退職して、定収入の  
ありがたさを再認識

消費生活アドバイザーの草分けである阿部絢子さん。長年勤めた職場を離れるまでには、さまざまになどとまどいがあったといいます。

「年金を60歳から繰り上げで受給開始。講演や執筆の仕事もありましたが、勤務先からの定収入がなくなる現実に愕然としました。結局、定年後のことを、真剣に考えていかなかったんですね」

現実を見据え、定収入の大切さを再認識した阿部さん。選択したのは、64歳からの「就活」でした。「薬局でパートタイマーとして働き始めました。この年で新しい仕事に就くのは、レジの操作ひとつとっても簡単ではありません。以前の仕事とは勝手が違うという気持ちの切り換えは必要ですね」  
でも、お客さんとの会話は楽しく、発見の連続だったとか。やは

60代で薬局のパートタイマー  
阿部絢子さん(72歳)



あべ・あやこ●生活研究家。長年、消費生活アドバイザーとして百貨店の消費者相談に携わる。著書に「60代の生き方・働き方」など。



薬局で接客中の阿部さん。「発見したのは、自分は接客が好きだということ。好奇心が、新しい仕事を楽しむ秘訣ですね」

お茶やコーヒーをゆっくり味わうのが朝の日課。「水だし茶はうまみもあり、心身がすっきりしますね。急須に茶葉と水を入れて冷蔵庫へ。ガラスボットはなくても十分です」



り仕事のおもしろさは、続けてみないとわからないといいます。

「すでに70の大病に乗り越えましたが、60代で仕事を続けていたから、今も働ける自分がいると思います。」

60代をどう過ごすかは大事。70代から急に仕事を始めるのは、やは

り、大変かもしれません」

いくつになっても  
得意なこと  
で役立ちたい

定収入を確保すべく再就職した阿部さんですが、「働く」ことについては、一言あるといいます。

「働ラク」とは、まわり(傍)の人がラクになることだと思

うんです。年を重ねても、傍がラクになるために自分ができるところを探すと、自分の役割が見えてきます。その意味では、収入につながるボランテアも、大事な働ラクだといえるでしょう」

そういう阿部さんが、今、楽しいのは、片づかなくて困っている人の家を、片づけることだとか。

「私は片づけ方の本も何冊も書いてきましたが、やはり得意なことは楽しい。こんな片づけのお助けレポートが、雑誌の連載にならないかと思ったりして(笑)」

再就職先の仕事も持ち前の好奇心で楽しみ、新しい仕事への意欲も絶やさない。傍ラク ことを楽しむという阿部さんの選択は、これからのシニア世代にとって、大いに励みになりそうです。